

公的年金運用益、過去最高の 10 兆 4973 億円 16 年 10～12 月

G P I F 発表

日経新聞 2017/3/3

年金積立金管理運用独立行政法人（G P I F）は 3 日、運用する公的年金の収益額が 2016 年 10～12 月期に 10 兆 4973 億円になったと発表した。2 四半期連続の黒字で、四半期の収益額としては過去最高だった。トランプ米大統領の経済政策への期待を背景にした株価上昇や円安による外貨建て資産の価格上昇などが影響した。

運用資産額は昨年 12 月末時点で 144 兆 8038 億円で、4～12 月期の収益額は 7 兆 6378 億円。市場で運用を始めた 2001 年度からの累積収益額は 53 兆 617 億円になった。

運用資産別にみると、国内株式で 4 兆 6083 億円、外国株式で 4 兆 8213 億円と、それぞれ四半期で最高の運用益を計上した。16 年 10～12 月期の株価は米政治の先行き不透明感から一時下落したが、年末にかけて新政権の財政拡大期待から大幅に上昇した。

外国債券は円安効果が金利上昇による価格下落を上回り、1 兆 5762 億円の運用益を出した。国内債券は 5190 億円の運用損だった。

足元では円相場が上昇基調で推移していることや株価上昇が一服しているため、運用益は小幅にとどまりそうだ。野村証券の西川昌宏チーフ財政アナリストの試算では、1～2 月の運用益は約 2200 億円と見込む。

G P I F は 14 年 10 月に株式の割合を 2 倍に増やし、資産全体の半分まで高めた。14 年度が 15 兆円の運用益を得た半面、15 年度は 5 兆円の運用損を出すなど、収益の振れが大きくなっている。

G P I F 運用益が過去最高の 10 兆 4973 億円 トランプ相場が後押し 28 年 10～12 月期

産経新聞 2017/3/3

公的年金を運用する年金積立金管理運用独立行政法人（G P I F）は 3 日、平成 28 年 10～12 月期の運用実績が 10 兆 4973 億円の黒字になったと発表した。黒字は 2 四半期連続で、市場運用を開始した 13 年度以降では過去最高の運用益。トランプ米政権への政策期待から国内外で株高が進んだうえ、円安ドル高で外国債券や外国株式を円換算した際の評価額が高くなったことも影響した。

28 年 10～12 月期の運用利回りは 7・98%、運用資産額（28 年末時点）は 144 兆 8038 億円で、いずれも過去最高になった。

資産別の運用実績は、国内外の株価上昇を受け、国内株式が 4 兆 6083 億円の黒字、

外国株式が4兆8213億円の黒字。

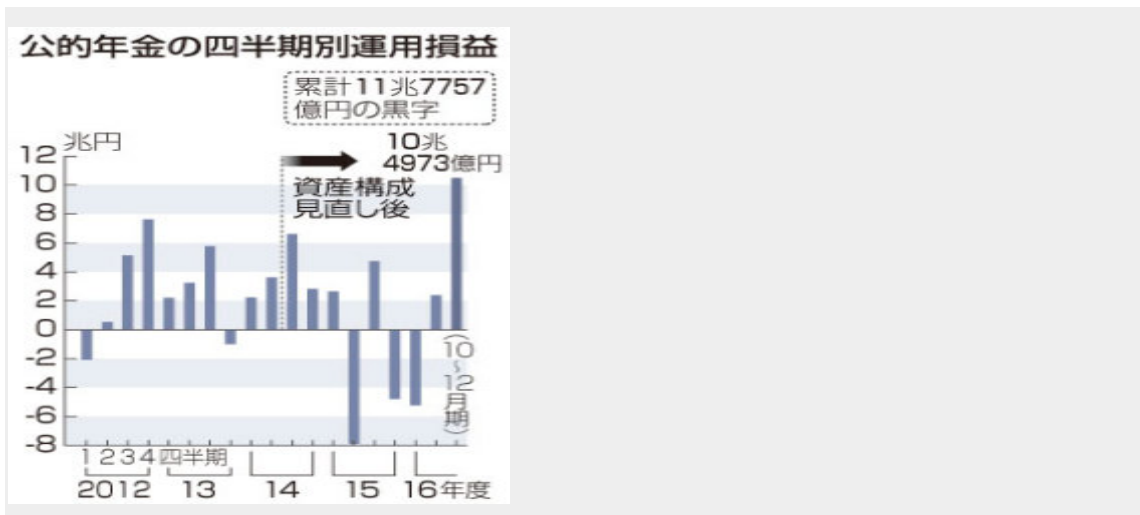
国内債券は長期金利の上昇（債券価格は下落）で、5190億円の赤字だった。米金利も上昇したが、外国債券は円安の効果で、1兆5762億円の黒字。

GPIFは26年に運用資産の構成を見直し、国内外の株式の割合を計50%まで引き上げた。株価変動の影響を受けやすくなった結果、28年4～6月期は世界的な株安などで5兆円超の赤字だったが、今回は大幅な黒字になった。

GPIFは「積立金は長期的な観点から運用しており、四半期の短期間で評価するのはふさわしくない。慎重を期して運用にあたっていきたい」と説明。長期運用を通じて、28年4～12月期の利子・配当収入は2兆137億円に上ったとしている。

運用黒字、初の10兆円＝トランプ相場で10～12月－公的年金

時事通信 201/03/03



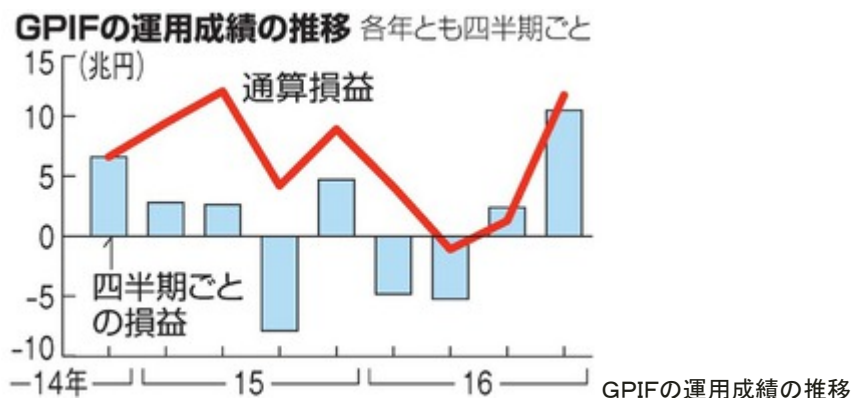
公的年金を運用する年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）は3日、2016年10～12月期の運用損益が10兆4973億円の黒字になったと発表した。黒字は2四半期連続。四半期ベースで初めて10兆円を超え、過去最大となった。米大統領選で当選したトランプ氏の財政拡大政策への期待から国内外の株価が上昇し、保有株の評価益が膨らんだ。

〔写真特集〕「美しすぎる金融系OL」松川佑依子さん

四半期ベースの黒字額はこれまで、安倍政権の経済政策を好感し株価が上昇した13年1～3月期の7兆6273億円の黒字が最大だった。16年4～9月期は株安から2兆8596億円の赤字だったが、今回の好成績で4～12月期は7兆6378億円の大幅な黒字に転換した。

公的年金の運用益10兆円超 株高で過去最高の黒字額に

朝日新聞 2017年3月3日



公的年金を市場で運用している年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）は3日、昨年10～12月期に10兆4973億円の運用益があったと発表した。2001年に自主運用を始めて以来、四半期ベースで過去最高の黒字。世界的な株高となったことが影響した。

昨年末の株高は、トランプ氏の米大統領就任が決まり、景気拡大への期待感が影響したとみられている。これまでの最高益は、アベノミクスによる影響とされる株高となった13年1～3月期の7兆6273億円。これを大幅に上回った。

GPIFは14年10月から運用資産のうち株式の比率を50%に倍増させ、株価の影響を受けやすくなった。14年10月以降の通算成績は昨年4～6月期にマイナスに転じたが、今回の上積みで11兆7757億円の黒字と持ち直した。

市場で自主運用を始めた01年以降の通算では53兆617億円の黒字で、15年6月末時点の53兆3826億円に次ぐ水準。資産総額は144兆8038億円と過去最高になった。

昨年10～12月期の運用成績は、外国株式が4兆8213億円、国内株式は4兆6083億円のそれぞれ過去最高のプラス。外国債券も1兆5762億円のプラスで、国内債券は5190億円のマイナスだった。

菅義偉官房長官は3日の記者会見で「自主運用開始以降の収益は年率3%弱。年金財政で見込んだ数字を大きく上回り、年金の安定に大きく寄与する成果だ。短期的な変動に一喜一憂することなく、専門的な視点で運用を行っていきたい」と述べた。（井上充昌）